

学園点描

いくつかの学年でトイレのいたずらが見られます。「自分は今、どんな気持ちなんだろう？」と立ち止まる自制心を育てることが課題です。

《H学園》

NO.10 R7. 7. 09

担当：校長

■地区中体連陸上大会の結果

【男子】

3年100m 第2位 T・R 1年1500m 第2位 N・H 第6位 I・R
 共通3000m 第7位 K・H 共通走高跳 第1位 O・S 共通砲丸投 第5位 H・T
 共通リレー 第7位

【女子】

3年100m 第8位 T・S 2・3年1500m 第5位 K・N 共通走幅跳 第3位 T・S
 共通砲丸投 第6位 I・K 共通リレー 第7位

■本校では、毎月第1・第3水曜日に、読み聞かせボランティア（3団体）の皆様が来校し、子どもたちに絵本の読み聞かせを行っています。7月2日（水）も『七色の風』の皆様が来校され、朝の時間に各学年で読み聞かせをしてくださいました。1年生には、『100万回生きたねこ』（佐野洋子 作）の絵本が読まれていました。大半の子どもたちは、真剣なまなざしで物語の世界に引き込まれるそんな時間となっています。



見ている人がいる

読み聞かせボランティアの方々の協力のもとに、子ども達に本の世界を誘ってもらうことは、心を豊かにするうえでとても効果があります。日頃、本を読まない児童も、読み聞かせを通して、本を読むことに関心をもってもらえたらうれしいです。

わたしが図書館に通うようになったのは、中学3年生の夏ごろのことでした。部活動を引退し、受験に向けて資料を探すために初めて図書館を訪れたのがきっかけです。

学校にいと、いつも誰かと一緒にいなければならないような空気があって、ひとりであることに気がつかってしまうことがあります。周囲に合わせることに疲れている子どもにとって、図書館は、現実から少しだけ距離を置ける、静かで安心できる場所でもあるのです。

そのとき感じた「居心地のよさ」が忘れられず、実は今でも、O田町の『Nのプラザ』や、M市の『Sプラザ』、H市の『学びあT』等に、何度も足を運んでいます。ときには『宮城県S市立図書館』まで足を延ばすこともあります。最近の図書館には、パソコン作業用のスペースも整っており、多くの人にとって快適な学びの場になっていますね。このたよりも、ある図書館の学習室で打ち込んでいます。

ある日曜日、そんな図書館で、思いがけない出会いがありました。かつての教え子が、図書館の臨時職員として働いていたのです。遠くで見ていると、その教え子の女性は、返却された本を一冊ずつ消毒して棚に戻すという作業を丁寧にこなしていました。コロナが流行だしたころから、感染予防のために本を丁寧に拭く仕事が増えました。それに加えて、利用者からの問い合わせや苦情対応もしているようです。



休憩時間に、彼女がふとこんな話を聞かせてくれました。

忙しい毎日の中でも、彼女は小さいころからお母さんに言われていた「笑顔で人に接しなさい」という言葉を大切にしながら、来館者一人ひとりに誠実に向き合っていました。



そんな彼女が、毎朝「こんにちは」と声をかけていたおばあさんがいました。やりとりは、それだけの挨拶。でもそのおばあさんは、いつも丁寧に返してくれたそうです。静かだけれど、彼女にとってはそれが毎日の小さな励みになっていました。やがて臨時職員としての任期が終わりに近づき、最後の出勤日がやってきました。

「もうこのおばあさんとも会えなくなるんだな……」そう思った彼女は、思いきって声をかけました。

「私、今日でここを退職するんです。」すると、おばあさんは笑顔でこう言ってくれたのです。「あなたは、いつも誰にでも笑顔で接していて、愛されキャラだから、どこに行っても大丈夫よ」

その言葉を聞いた瞬間、彼女は「ありがとうございます」と言いながら涙ぐみ、おばあさんに深く頭を下げると、控え室に駆け込んだそうです。

あとから彼女は、こんなふうに話してくれました。

「この数年、がんばってきてよかった。私のがんばりを、ちゃんと見ていてくれた人がいたんですね」

素敵なエピソードだなあと思いました。今この気持ちを図書館で書き留めています。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。